

図書行政について

保科 惣一郎

〔質疑〕(1)児童図書の現状とその対応について

活字離れが、子どもたちの表現力や思考力に大きな影響を与え、発育を阻害していると言われている。

学校図書室を見せて頂いて感じたことは、

- ①図書棚が高く、手の届かないところに本がある。
- ②本が古く、全く利用され

ていない本がある。

③国語辞典や学習辞典が古く、現在の語句に対応していないのが現状である。

子どもたちが、本との出会いが楽しくなるような図書館作りをどう構築するのか。
(2)公立図書館の指定管理者制度について

中心市街地に対する概念規定と本市に対する果たす役割について

沼倉 啓介

〔質疑〕中心市街地の荒廃は、各自自治体を取り組むべき大きな課題として存在している。それもなかなか決め手となるものが見出せずに進んでいるのも現実である。

しかし、この課題の解決は、まちの再生に不可欠な要素として存在している。

改めて中心市街地をどのよ

うな理念と役割が存在するととらえ、達成には、どのような努力が必要とされるか伺いたい。

〔答弁〕現在の子どもたちの生活環境は、情報メディアの発達や普及で、読書を楽しむ生活環境が非常に変化している。

しかし、読書が幼児期から果たす役割というのは、人格形成では非常に大きなものがあるとの認識をしている。

昨年、市内の小学校3年生と6年生、中学2年生に対しアンケート調査を行ったが、読書が好きだという子どもたちは8割強ぐらいいるが、反面、2割近くの子どもたちは

全く読書をしていないという結果もわかった。指摘のあった①から③までの問題については、現在、白石市子ども読書推進計画を策定中であり、来年度の当初予算に増額を要望している段階である。

指定管理者制度導入については、図書館の蔵書は限定されているので、図書館同士が相互貸借を行い、白石市の図書館で無ければ県の図書館、蔵王町の図書館というように範囲を拡大して本を借りてい

つくられるのではないかと思っている。これからは、さまざまな広場などこれまで整備してきたものに、新たなアイデアを出し合いながら、ソフトの面で対応していくということが大切だと思っている。

それには、やはり行政と、商店街組合、そして市民が、既存のものを活用し、ともに汗をかいて学び、生かしていかないと、その成果はあらわれないと思っている。

今後、商工会議所や商店

る。

しかし、指定管理者制度を導入してそのような利用者の資料要求に十分こたえられるかどうかという問題がある。

また、書籍の選択においても、ベストセラー等の、目先の要求だけで本を揃えるのではなく、市民の求める本を熟知し、揃えることが要求されるが、このことが課題になるのではないかと議論があり、同制度の導入はこれらの問題が解消されてからと考えている。

街組合、各種団体と連携を深めながら活気のある中心市街地を共創していくことが市街地の活性化の一路になると考えている。

まちの中で、さまざまな団体が様々な企画をして、白石のまちのにぎわいをつかもうと一生懸命やっております。それを市民にもっと活用してもらおうとともに参画してもらいたいと思っている。